

## 【概要版】自治労連 ～会計年度任用職員のあなたへ～

### 「もっと、あなたに聞きたい！2023アンケート」単純集計結果報告

#### （実施方法と調査期間）

2023年11月から24年3月末にかけて「会計年度任用職員のあなたへ～もっと、あなたに聞きたい！2023アンケート」(2023アンケート)調査を行った。調査については、アンケート用紙方式とGoogle Formsを活用したオンライン方式を併用して実施した。

#### （調査対象およびサンプル数）

調査対象は、全国的な実態を把握するため全国の自治体で働く会計年度任用職員とした。

本報告では、全国から集約されたアンケート用紙回答(6,441サンプル)とオンライン回答(3,840サンプル)を合計した、10,281サンプルについて単純集計及び分析を行った。

#### （質問項目について）

直近の「会計年度任用職員制度」のリアルな実態を把握できる項目に特化したうえで、調査対象となる会計年度任用職員がストレスなく記入できることに留意した。本調査では、前回の調査(2022アンケート)の項目に加えて、①職場における公募の頻度(設問8)と、②仕事を失うことに対する不安やストレスの有無(設問9)に関する質問を新たに設けた。

## 2023アンケート調査結果の傾向と特徴

- (1)10,281サンプルに占める女性割合は85.8%であり、2022アンケートと同様に「会計年度任用職員制度」が女性労働に依存する制度となっていることが確認された。
- (2)2022年の会計年度任用職員としての年収では年収200万円未満(いわゆる「ワーキングプア」水準)が過半数であった。さらに「単独で主たる生計を維持している」と回答した25.8%のうち、年収200万円未満が47.7%を占めた。「会計年度任用職員制度」が「官製ワーキングプア」の労働者及び家庭をうみだす役割を果たしている。
- (3)公募の頻度に関する回答のうち「わからない」「その他」を除くと、半数以上で毎年公募が行われているとされており、仕事を失うことに不安やストレスを感じる者は「ある」「少しある」を合わせると76.8%に上る。処遇改善を趣旨として始まったはずの「会計年度任用職員制度」が雇用不安の温床となっている。
- (4)改善してほしいことについては、「賃金を上げてほしい」(57.7%)に続いて、「継続雇用にしてほしい」(41.8%)が2番目に多く、働きつづけたいという思いが強く現れた。自由記述にも、公募による不当な雇止めへの危惧など、脆弱な雇用を前に弱い立場に立たされ、“不安”や“怯え”を感じている記述が数多く見られた。

～会計年度任用職員あなたへ～  
「もっと、あなたに聞きたい！2023 アンケート」  
単純集計結果の報告(3/31 時点)について

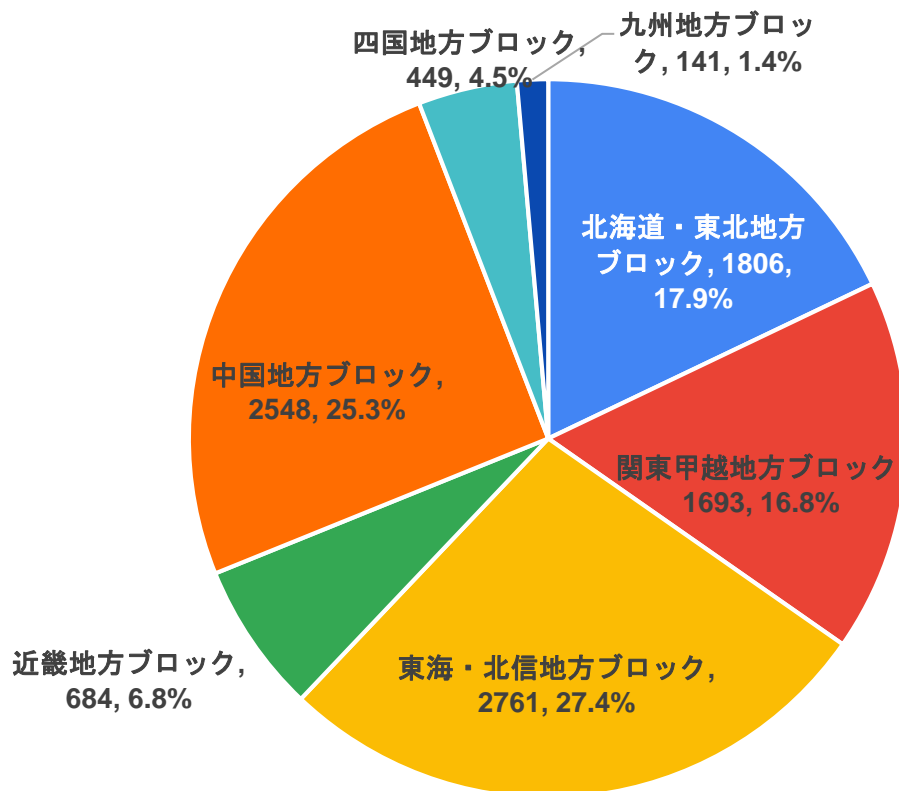
◇2024年3月31日時点の有効回答数は10,281(内、オンライン回答3,840)

※ 以下、図表中の“n”は、上記有効回答数のうち、設問ごとに不明・非該当等で無効となった回答を除いた回答数

※ 問2以降、新設の質問を除き、2023アンケートと2022アンケートの結果を比較するグラフを掲載した

問1. あなたが勤務している都道府県および市区町村をご記入ください

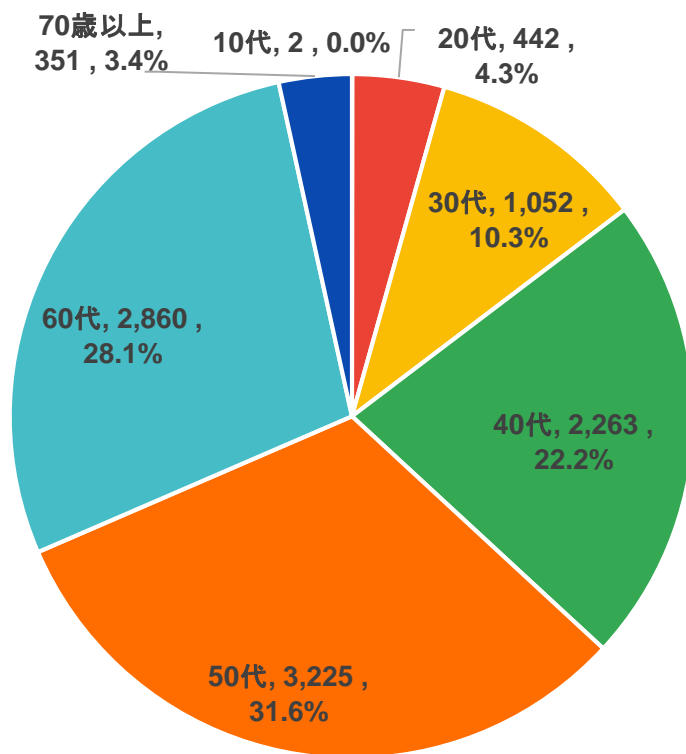
- 最終集計では、10,281サンプルの有効回答を集約しました。有効回答10,281サンプルのうち、オンラインによる回答数は3,840サンプルで37.4%となりました。
- 都道府県については、全国36都道府県から10,082の回答があった。



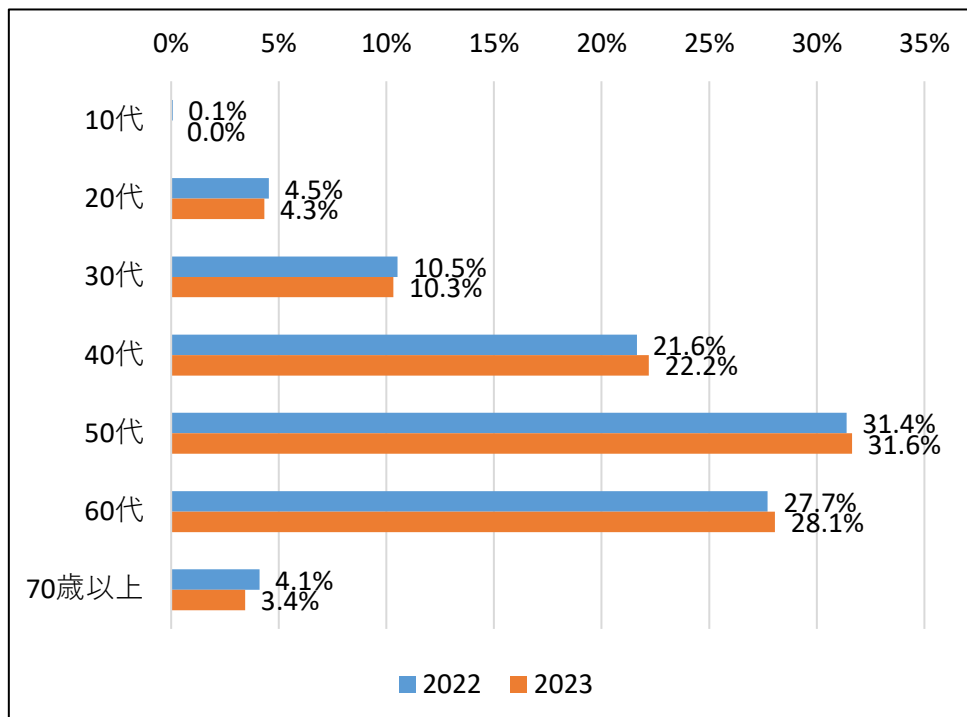
n=10,082

問2. あなたの年齢は？

● 40代以上が全体の85.3%、50代以上も63.1%を占め、20代以下は4.3%に留まっています。また、もっとも多い年齢階層は50代で全体の3割を占めていることが特徴です。



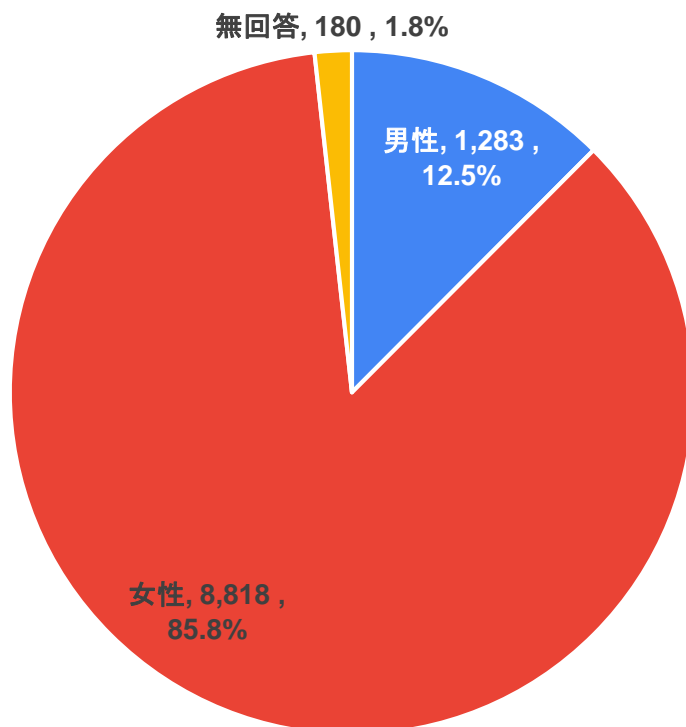
n=10,195



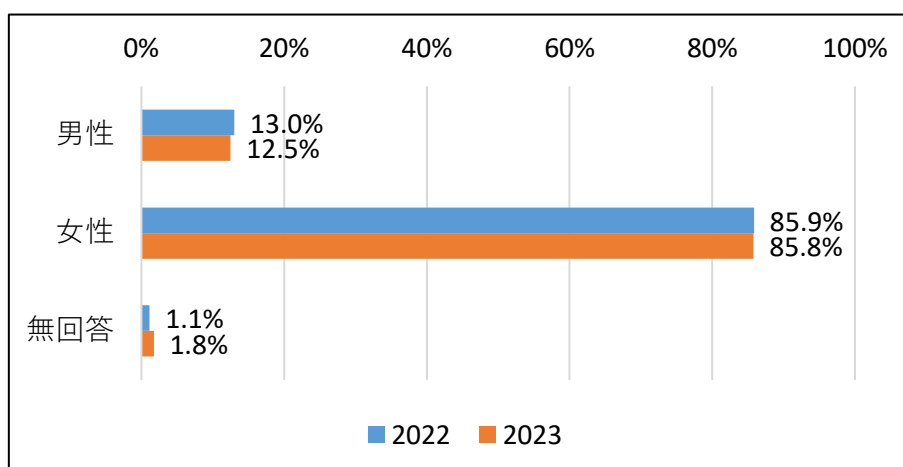
### 問 3. あなたの性別は？

- 総務省の公表では、会計年度任用職員に占める女性割合は約 8 割です。本アンケートでも回答者の 85.8%を女性が占めています。
- 地方自治体における「会計年度任用職員制度」が女性労働のうえに成り立っている制度であることが明らかとなっています。

※ 地方公務員の正規職員に占める女性割合は 38.2%

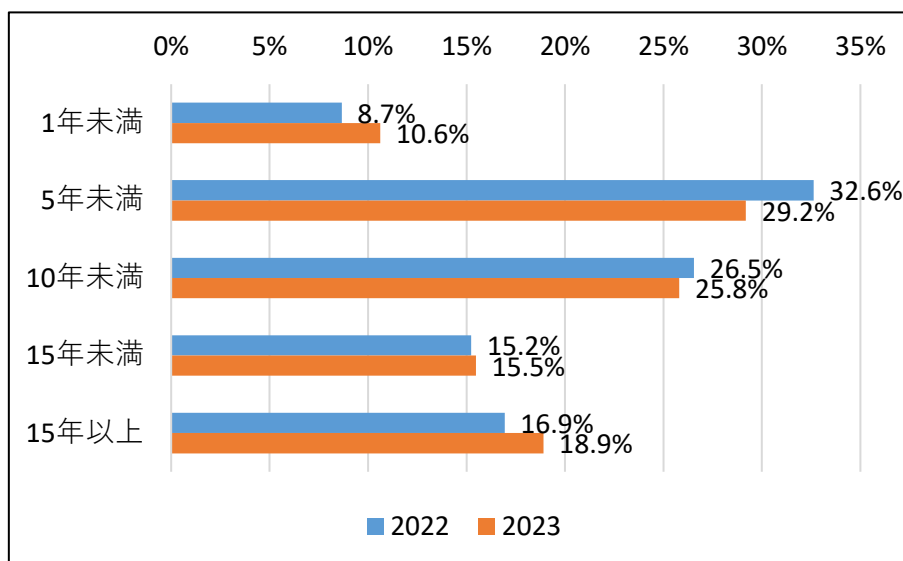
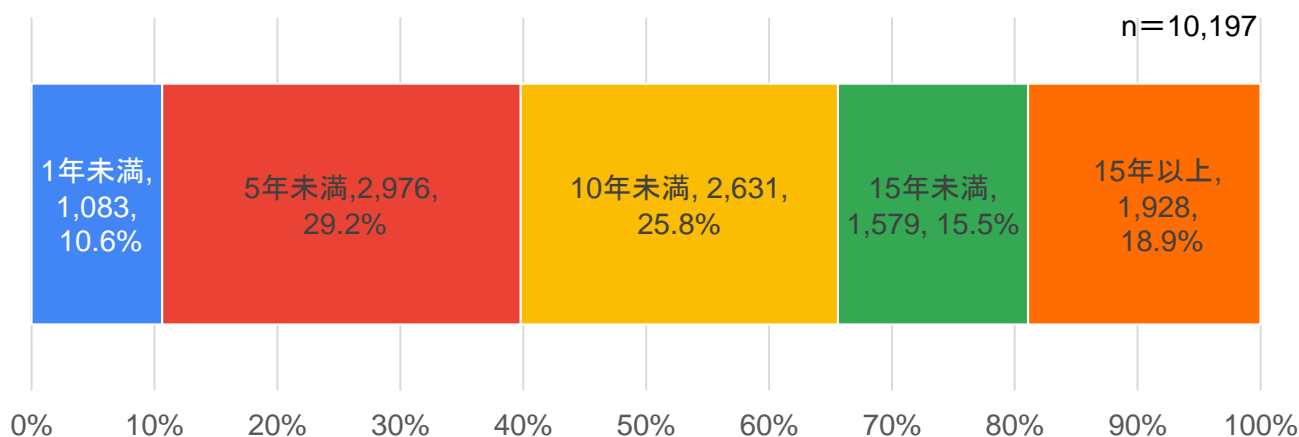


n=10,281



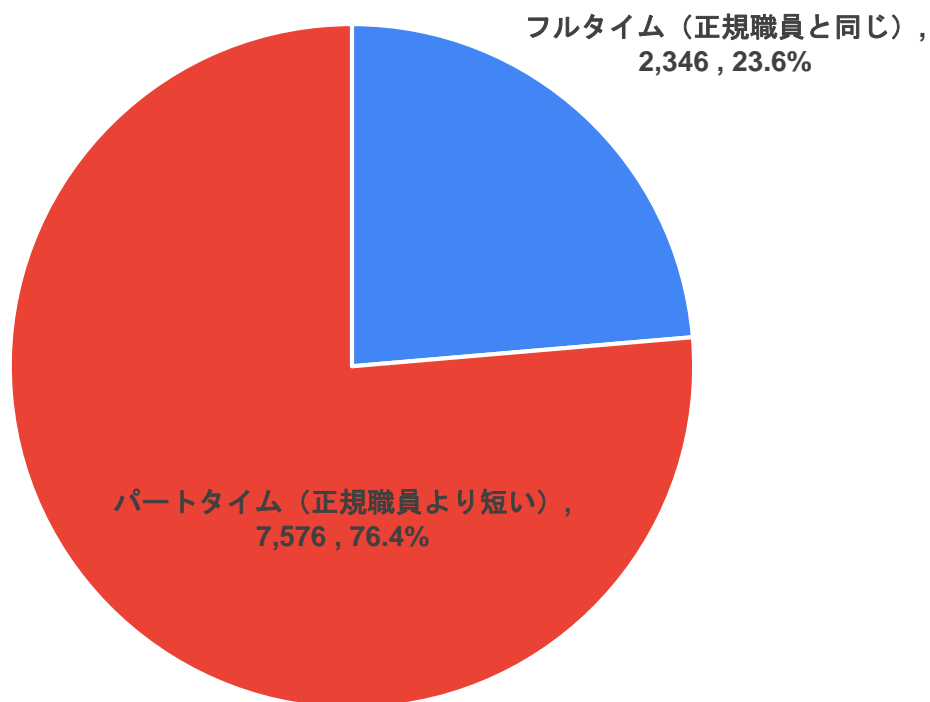
#### 問 4. 勤続年数を教えてください

● 勤続年数については、5年以上が60.2%を占めており、1年未満(初年度)は約1割に留まっています。回答者の約9割が複数年以上、6割以上が5年以上の長期にわたり同一自治体で働きつづけており、会計年度任用職員の多くが「臨時の業務」とは言い難い業務に従事していることがわかります。

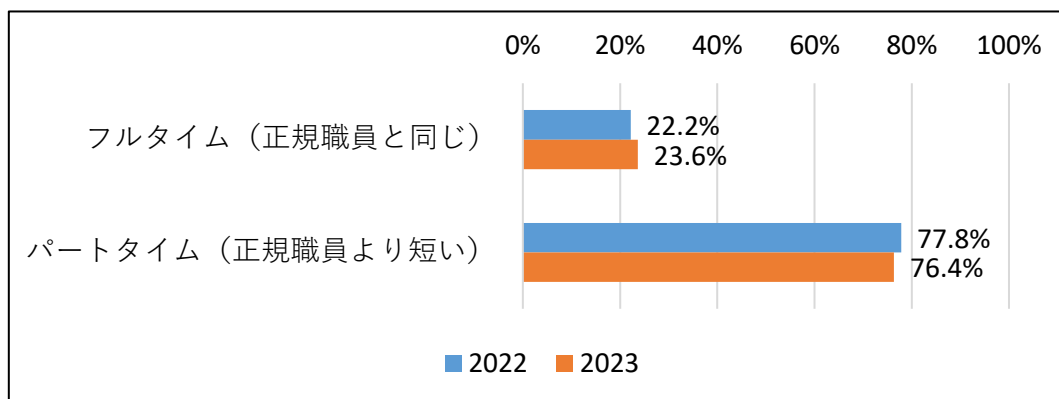


### 問5. 勤務時間について

● 勤務時間が正規職員よりも短いパートタイムの割合が8 近くを占めています。

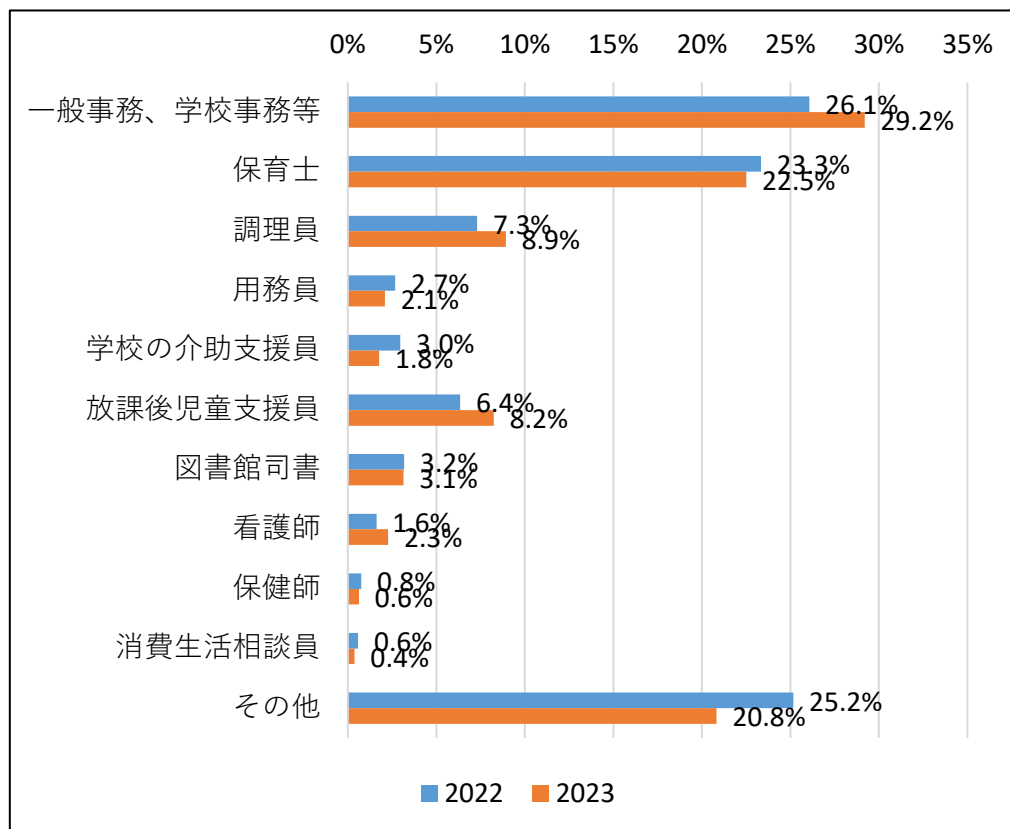
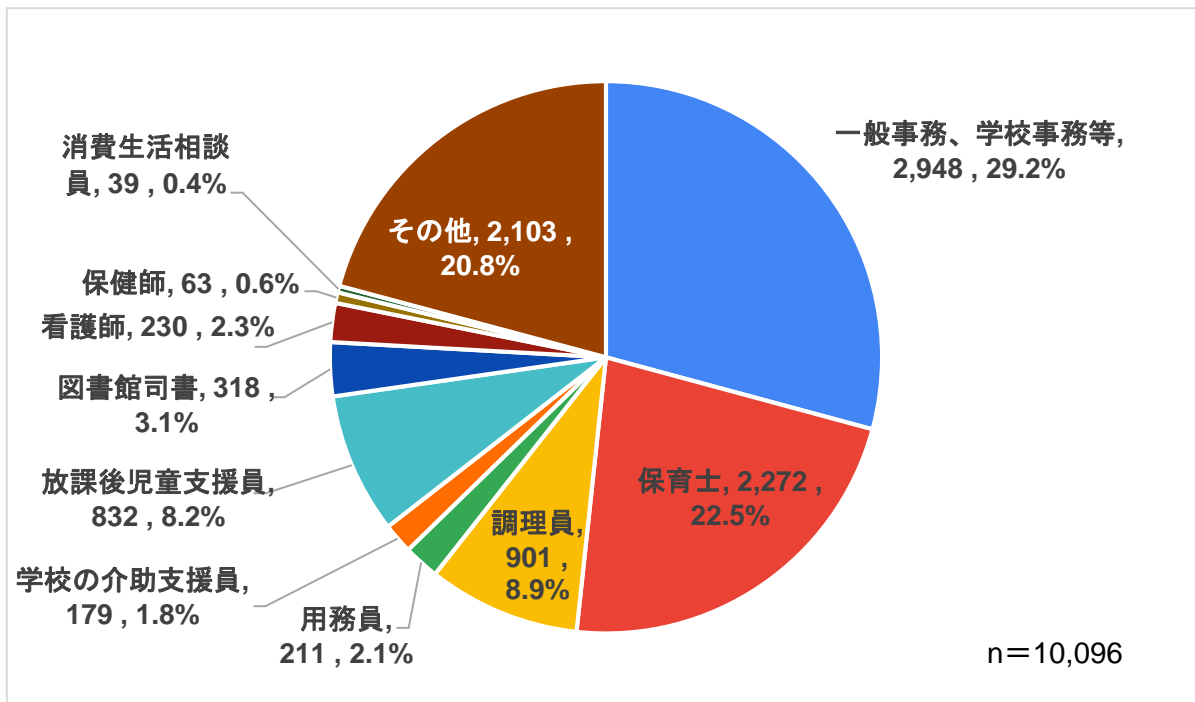


n=9,922

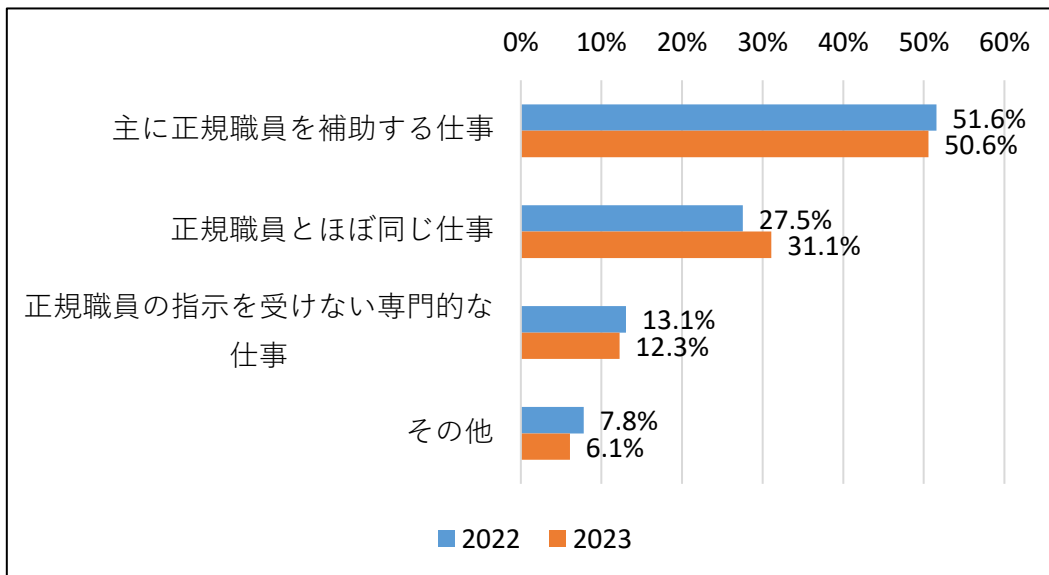
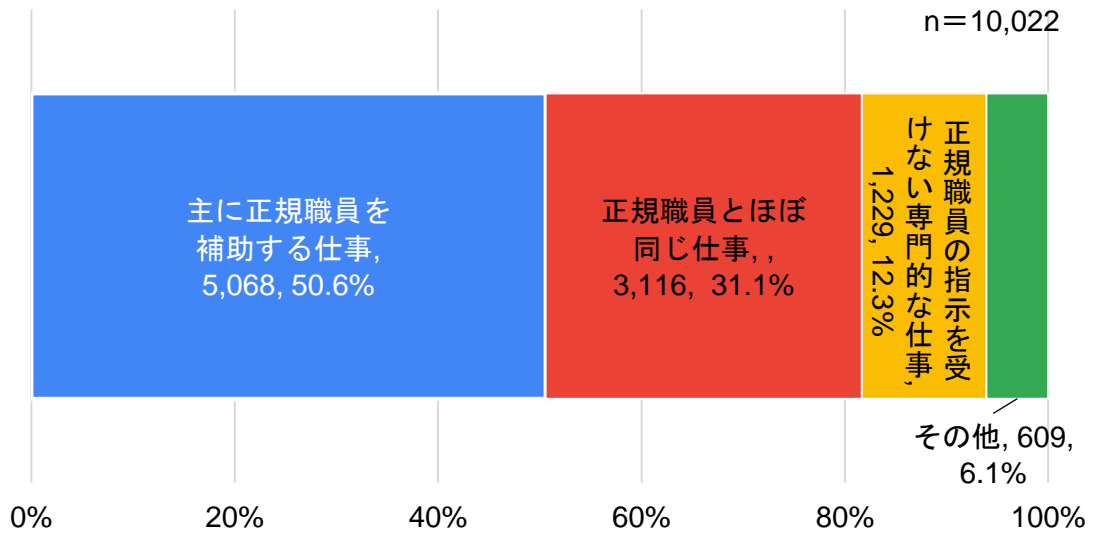


問 6. 仕事の内容について

- 一般事務等を中心に、多岐にわたる職種に会計年度任用職員が分布していることがわかります。
- 特徴は、地方自治体では経験や資格が求められるような専門性及び持続性が高い業務にまで、会計年度任用職員制度が用いられていることです。



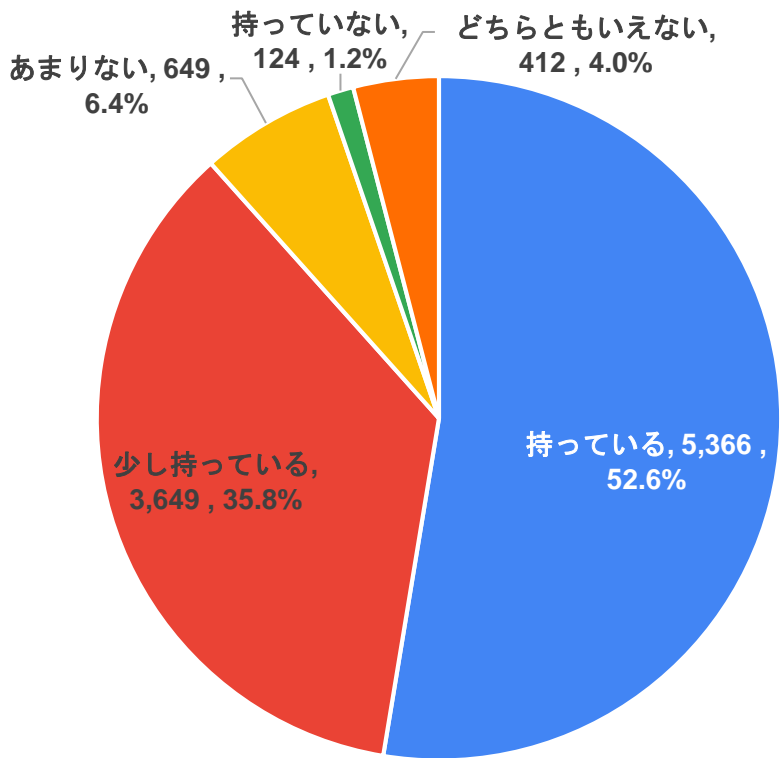
- 「補助」ではない「正規職員とほぼ同じ仕事」(31.1%)と「正規職員の指示を受けない専門的な仕事」(12.3%)が44.4%を占め、4割を超える会計年度任用職員が「正規職員の補助的業務ではない仕事」に従事しています。
- 正規職員が担うべき業務を会計年度任用職員に置き換えている地方自治体の実態がわかります。



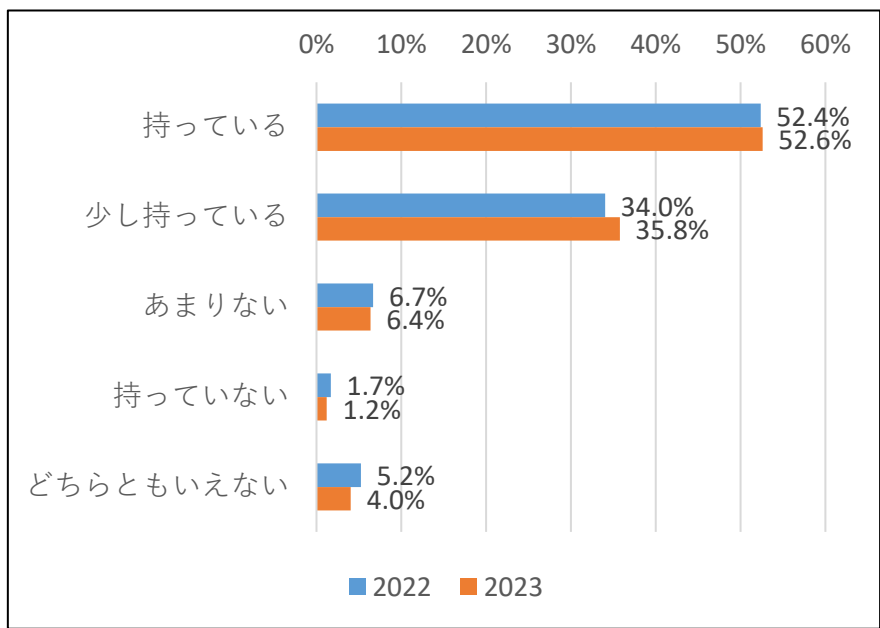


問 7.仕事にやりがい・誇りを持っていますか？

● 仕事にやりがい・誇りを「持っている」または「少しある」と答えた方は合計 88.4%、ほとんどの会計年度任用職員が、仕事に「やりがい・誇り」を持って取り組んでいます。

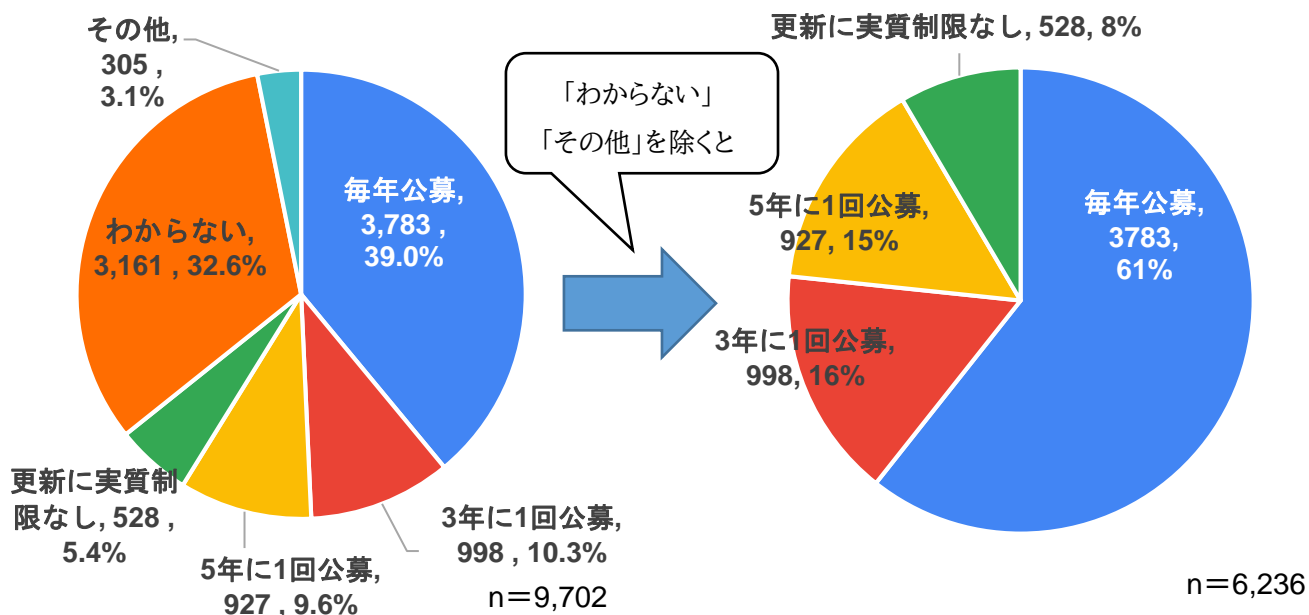


n=10,200



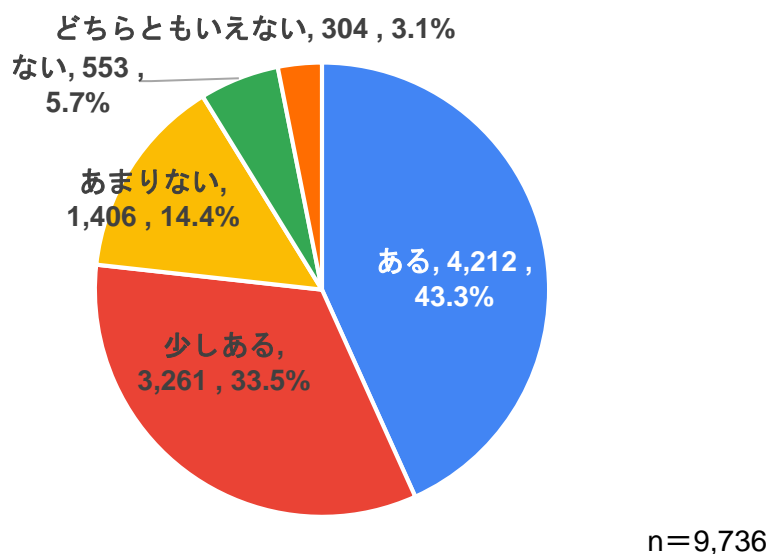
(新設)問 8.あなたの職場で公募は？

- 「毎年公募」と答えた割合は 39.0%で、「3年に1回公募」「5年に1回公募」と合わせると、58.9%が一定期間で公募が行われることになっています。
- 他方、32.6%が公募の実施時期について「わからない」と回答しています。



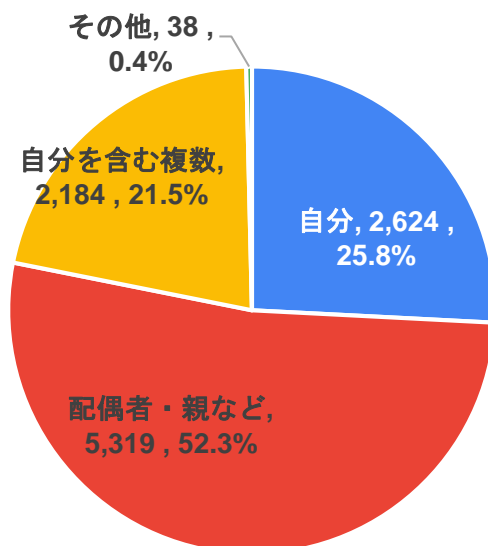
(新設)問 9.仕事を失うことに不安やストレスを感じることは？

- 「ある」「少しある」と答えた割合は 77.8%で、8割近くの回答者が仕事を失うことに不安やストレスを感じていることがわかりました。

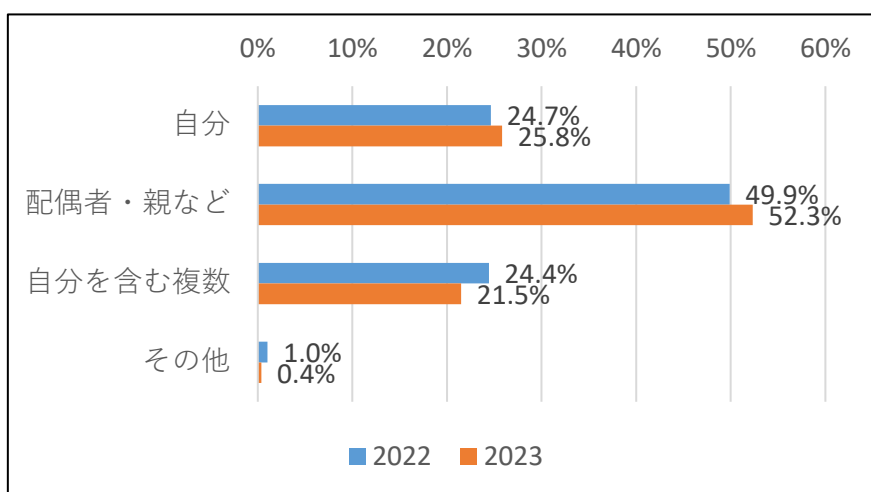


問 10.おもに家計をささえているのは誰ですか？

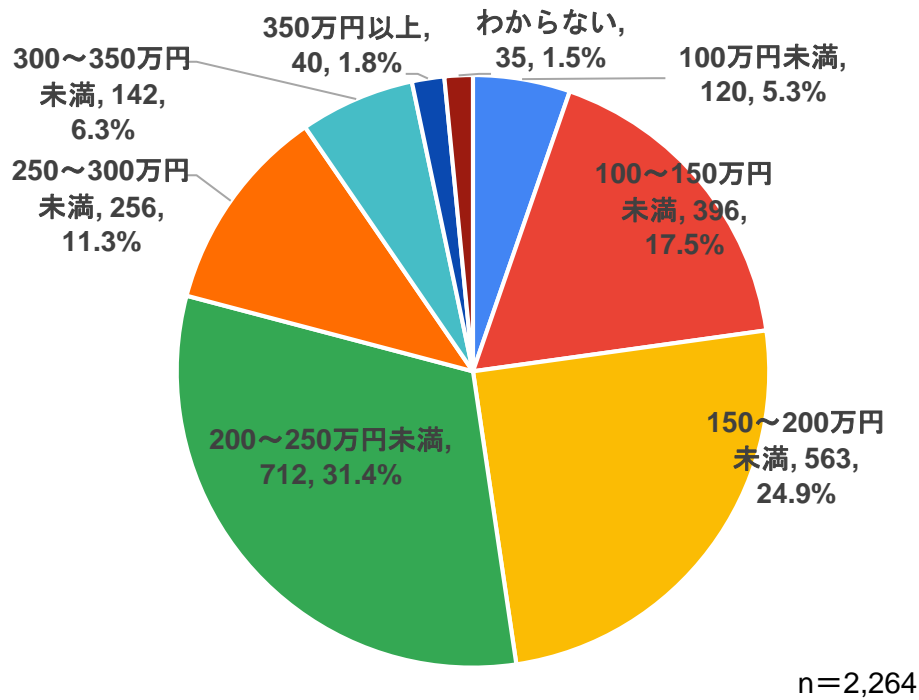
● 主な家計維持者が「自分」と答えた人の割合は全体の4分の1を占めました。また、「自分」と「自分を含む複数」の21.5%と合わせると、半数近くの会計年度任用職員が自らの収入によって、家計を支えていることがわかります。



n=10,165



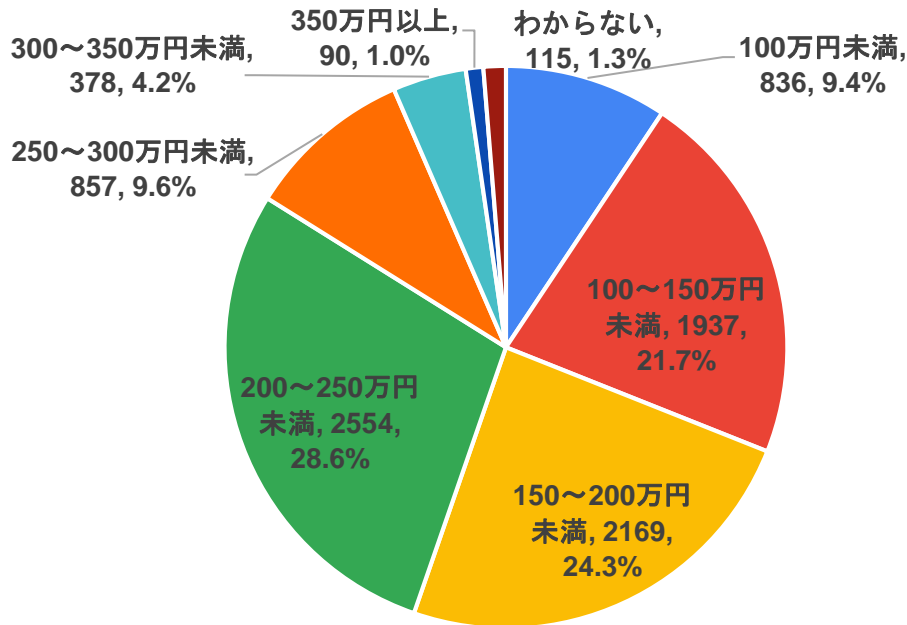
- 主な家計維持者が「自分」と答えた 2,264 人のうち、年収 200 万円未満の割合が 47.7%に達しています。
- 回答者の 85.8%を女性が占めていることを踏まえれば、「会計年度任用職員制度」が地域に世帯年収で 200 万円に満たない「官製ワーキングプア」の女性労働者と家族をつくりだしていることがわかります。
- また、世帯年収を 250 万円未満に広げれば 79.1%。急激な物価高騰により家計支出が増大するもと、8 割が「ワーキングプア」近辺で働いています。



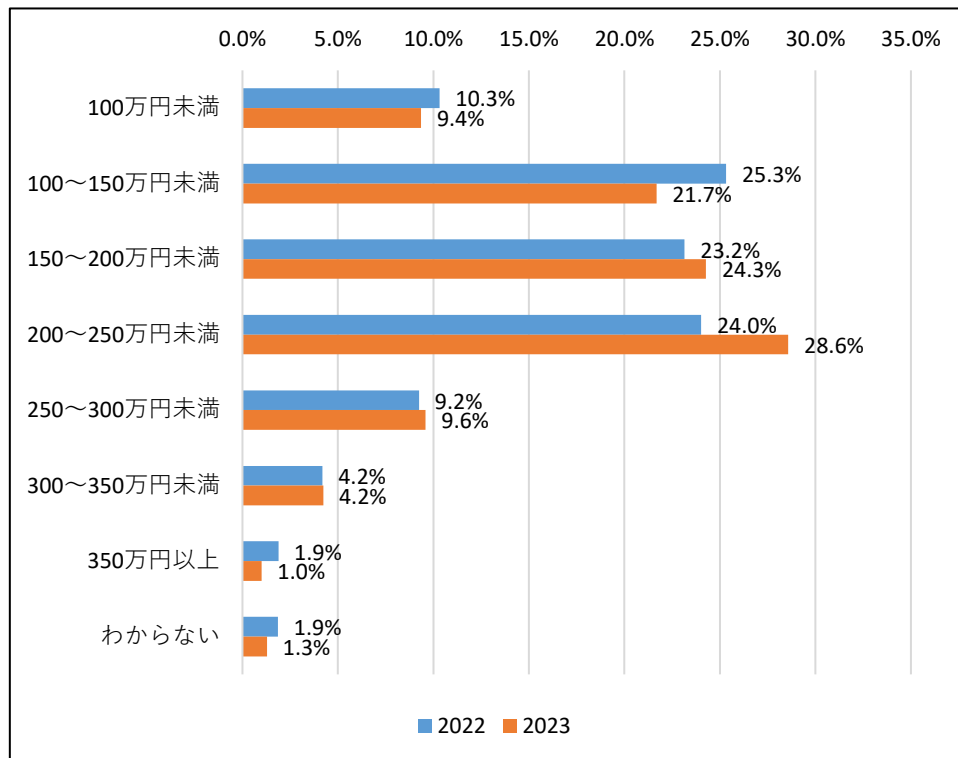
問 12. 昨年(2022年1月～12月)の会計年度任用職員としての年収は？

※ 勤続年数1年以上の方へ

● 年収200万円未満が全体の55.4%を占めており、多くの会計年度任用職員が低所得で雇用されていることがわかります。

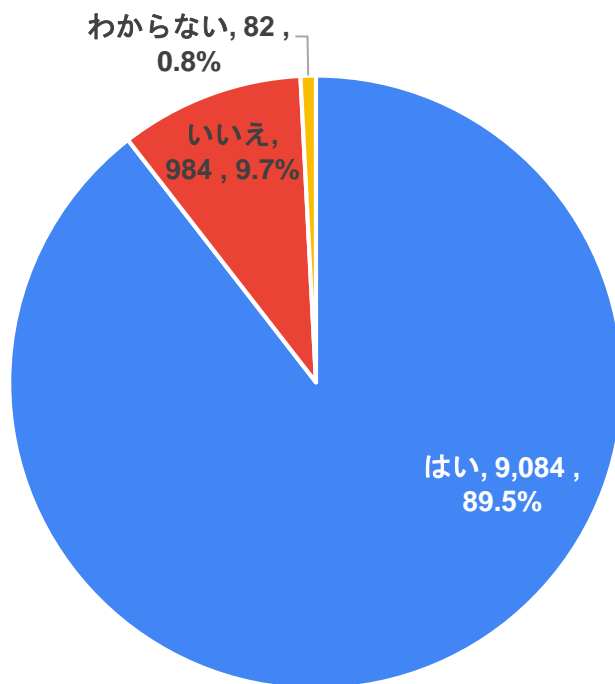


n=8,936

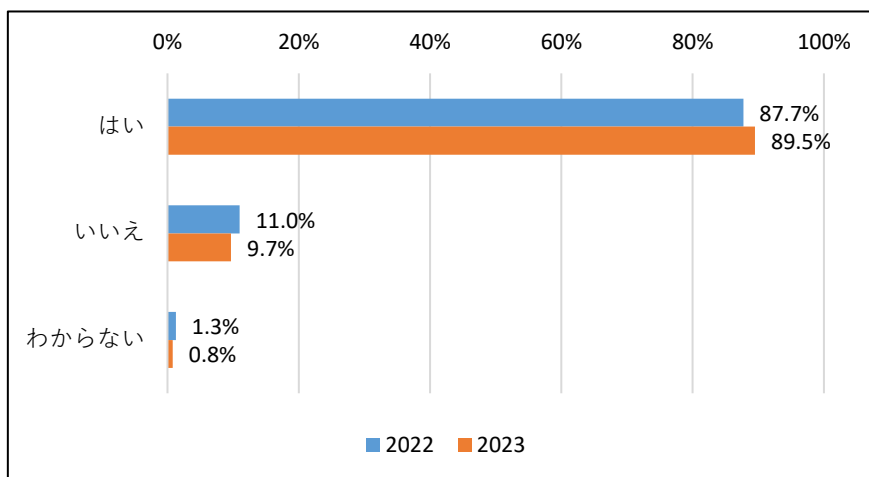


問 12.一時金(ボーナス)はもらっていますか(もらえますか)？

- 水準はさておき、回答者の 89.5%が、一時金(ボーナス)をもらっていると答えています。
- 会計年度任用職員制度の運用により、地方自治体でも会計年度任用職員に対する一時金(ボーナス)支給が一定定着しつつあることが伺えます。

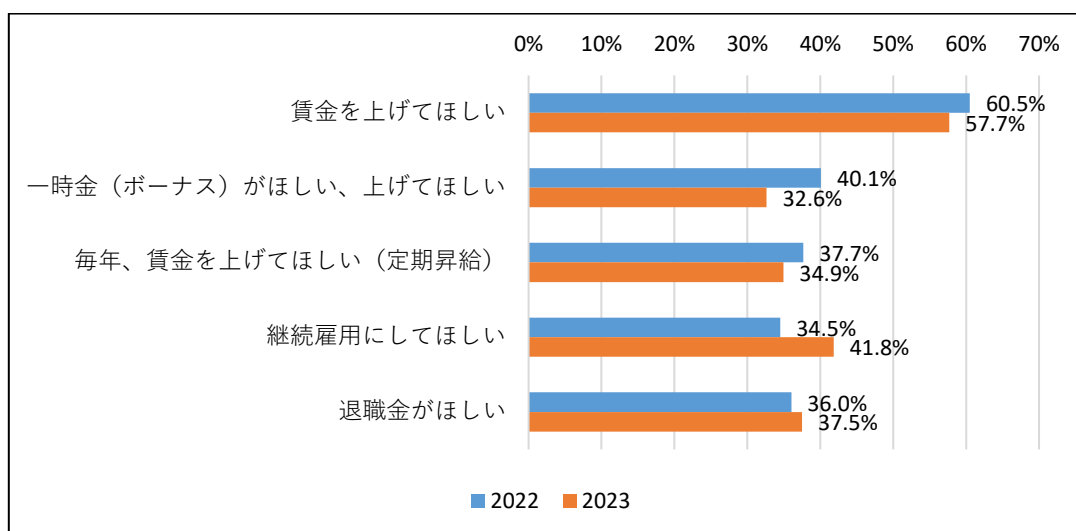
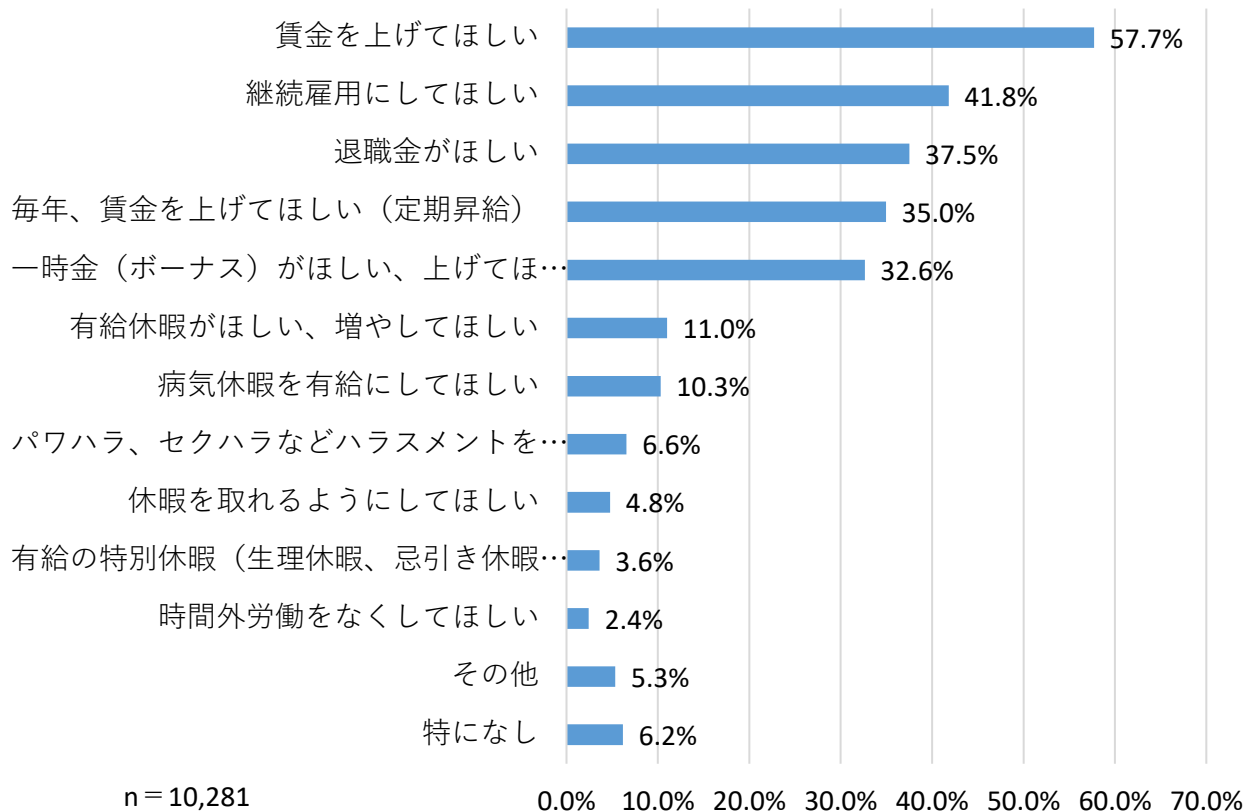


n=10,150



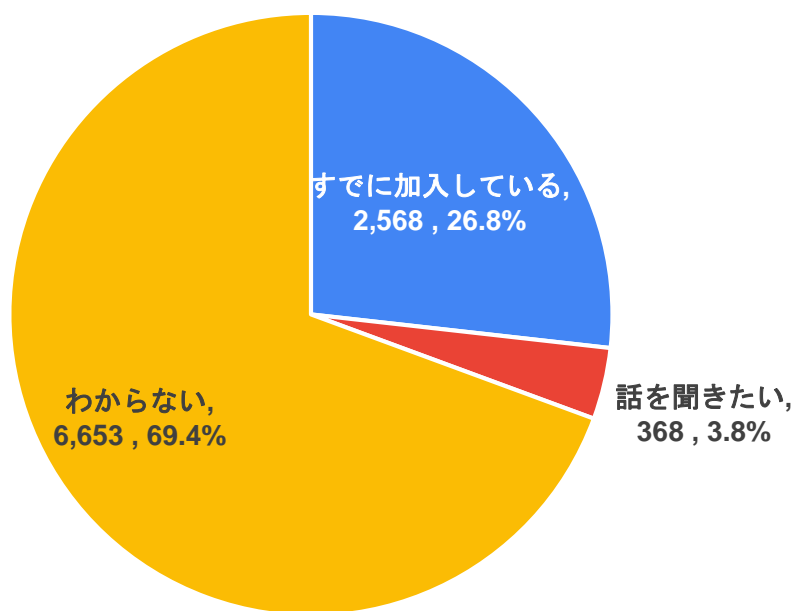
問 13. あなたが改善してほしいことは何ですか(3 つまで)

- 「あなたが改善してほしいことは何ですか(3 つまでの複数回答可)」に対し、①「賃金を上げて欲しい」57.7%、②「継続雇用にしてほしい」41.8%、③「退職金がほしい」37.5%、④「定期昇給」35.0%、と、昨年と比べて雇用の継続を希望する回答が著増しました。
- 生計の維持の前提となる雇用の維持、「継続雇用」を4割の回答者が求めています。また、自由記述回答にも、公募の撤廃など安定した雇用を求める記述が数多く見られました。

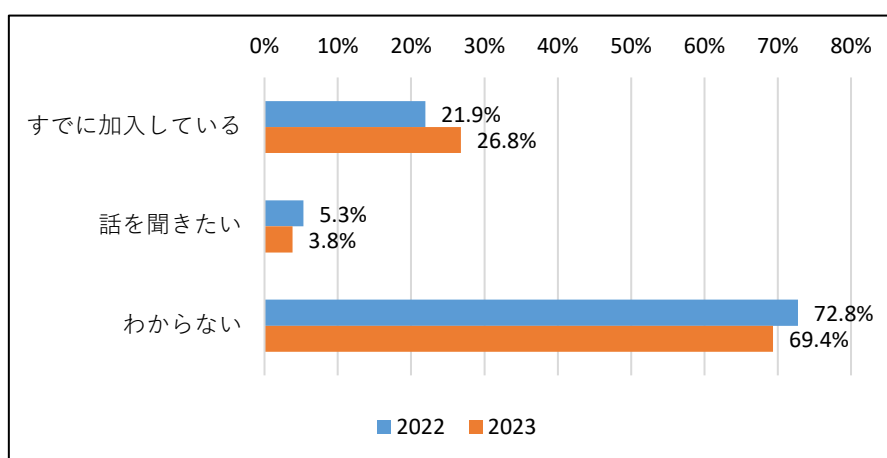


## 問 14. 労働組合加入について

- 3割近くの回答者がすでに労働組合に加入しています。
- 一方、4分の3近くが労働組合について「よくわからない」と回答しています。このことは、今調査の対象を組織内に留めることなく、幅広く協力を呼びかけたこと、Google Forms を活用したオンライン方式と併用したことなどが反映された結果と分析しています。
- 7割以上の回答者が労働組合に未加入であるものの、多数の自由記述を含む回答があったことで「声をあげられる場所」に対する期待と関心が寄せられていることがわかりました。引き続き、労働組合が会計年度任用職員制度の抜本的な見直しにとりくむことをアピールし、つながりをつくっていくことが求められています。



n=9,589





## 自由記述回答

### 【安定した雇用・再度の任用に関する記述】

- いま A 市では学校給食を民営化していっています。今年度の公募も更新なしの 1 年のみになっており、どんどん働く場所が無くなっているのが現状です。この歳になり、新たな職を探さなければならぬとなると、不安ばかりです。体力が続く限り、続けたいと願っています。(50 代・女性・調理員)
- 3 年に一度の更新試験が負担です。年齢を重ねるにつれ難しく、ストレスを感じています。どんなに職歴があり、仕事を評価されていても、たった一度の試験で一定の足切りがあるのがつらいです。(50 代・女性・一般事務、学校事務等)
- どんなに頑張っても低賃金。残業代出なくても接客対応で残業になることがある。その分の振り替えはない。5 年ごとに採用試験を受けなければならず受かるとは限らない。いくらこの仕事が好きで自分の責任でこの職についているとはいえ、正規職員との待遇の差にやる気を失いつつある。誇りをもって働ける生活環境が欲しい。(40 代・女性・図書館司書)
- 5 年間、2 期会計年度任用職員を一生懸命勤めてきたが、3 期目の試験で不合格となってしまいました。10 年頑張っても何も考慮されることはなかったのか評価されていなかったのかと思うと、とても残念。5 年ごとの試験制度が撤廃されることを願います。(40 代・女性・一般事務、学校事務等)
- いま会計年度任用職員の勤務上限は 5 年で、その後も仕事を続けなければ試験を受け、通ったとしても報酬は 5 年目のまま上がらない。……5 年上限で試験で人を選ぶ制度であれば、気に入らない会計年度任用職員を辞めさせる手段に使っていると思えて仕方がない。また、5 年間の実績を各年々で評価して 1 年ごとに昇給させているのだから 6 年目以降も昇給させない理由がわからない。(60 代・男性・その他)
- 会計年度任用職員で一年更新でありながら、児童クラブ代表という責任ある立場を任せられ、命を預かる使命は思い、待遇がなっていない(60 代・女性・放課後児童支援員)
- 毎年の公募がストレスである。仕事ができない人は一年でクビになるため、少しのミスも命取りになる。それによるパワハラ発言もある。継続雇用されても毎年新人の指導とカバーをしなければいけないため、とても大変です。立場が強くて人数も多い正規職員に仕事を押し付けられ、年々仕事の量は増えていくが、給料は上がらないため理不尽さを感じる。(40 代・女性・その他)

### 【賃金・手当の改善、均等待遇に関する記述】

- 年々、正規職員の雇用が減り、会計年度任用職員の数が増えている。B 市では嘱託司書として長年働いてきたベテラン職員も、正規採用がほとんどないため、安い賃金で正規並みの仕事を強いられている。特に小規模の分館では正規職員がいないため、会計年度だけで責任ある仕事もせざるを得ない。嘱託から会計年度に移行して、条件も改悪され、生活が苦しくなる一方。ほぼ同じレベルの労働ならば賃金を上げるべき、少なすぎると思う。(40 代・女性・図書館司書)
- とにかく賃金が安い。時間外がなければ本当に低い水準(特にフルタイム)。職場では自分なりに頑張っているつもりだが給料明細をみると自分の評価はこんなものか…と落ち込むこともある。(60 代・女性・保育士)

- 有休が少なく、子どもの病気で全部消えてしまい、欠勤扱いになるので何とかしてほしい。やはり正規と比べると休暇制度の見直しがあると思う。(40代・無回答・一般事務、学校事務等)
- 職員とほぼ同じ仕事をしているのに給料もボーナスも1/3しかもらえない事が不満。ガソリン代も価格が2倍くらいになっているのに変わらない。もっともっと賃金を上げてください！！物価が高すぎて生活できません！！(40代・女性・その他)
- 保育士の仕事は命を預かっている仕事なので、会計年度でも給料を上げてほしい。正職との賃金の差が大きいのでモチベーションが上がらない。せめて手取り20万円はほしいです。(40代・女性・保育士)
- 仕事内容が多岐にわたり、とにかく忙しい。少数職種で仕事の割り振りができない。専門職であるが、同じ職種の正規職員がいないので、責任が重く、給与以上の仕事をしていると思う。(男性・60代・発達相談員)
- 私は今年の3月で退職ですが、退職金はありません。40年近く働いてきて組合活動もしてきましたが、この現状を変えることができませんでした。短時間勤務とはいえ、専門職として働いているわけで、退職金に当たるような手当が出てもいいのではないかと思います。(60代・女性・図書館司書)

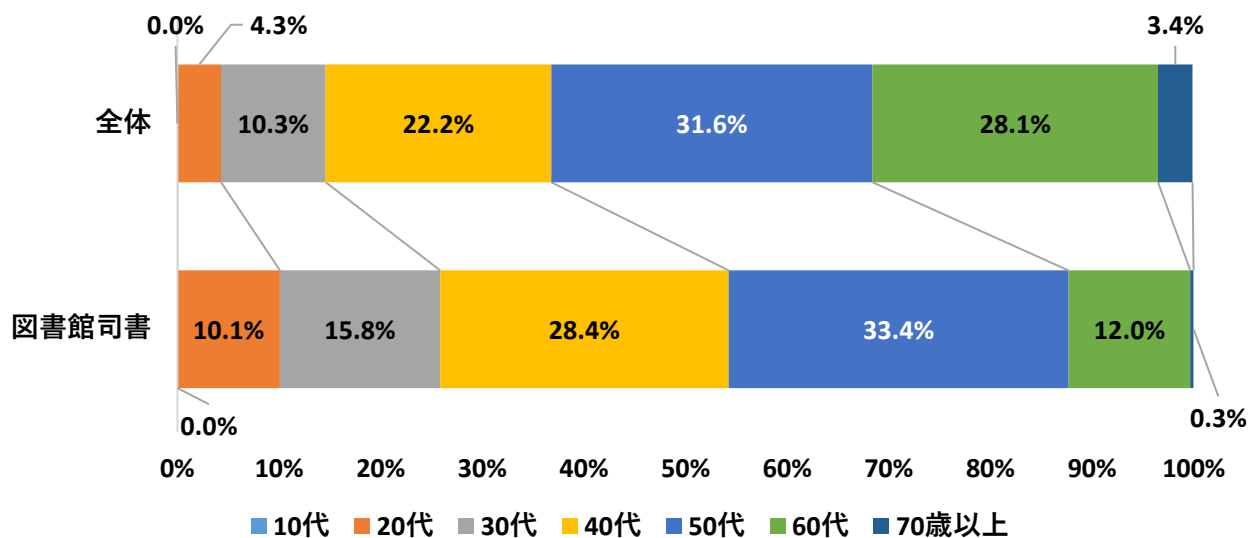
#### 【自治体による不適切な対応及び制度の抜本的な改善に関する記述】

- 司書、保育士etc.女性の多い職種が、多くが会計年度にされてしまっていることが、腹が立ちます。就業時間も、男女ともに子育て・介護ができる短い時間でもちゃんとした賃金があり、又、長い方には報われるような支払いが必要かと思えます。出産直後の男性育休だけでなく、ずっと家庭生活に参加できる働き方が必要かと思えます。(60代・女性・その他)
- 長年働いてきて、いつかは正規職員になれると思いながら、正規職員と同等の仕事をしてきました。それなのに会計年度任用職員制度のため毎年試験があり、次年度どうなるかわからないという状況。定年を迎える前に給料が安い上にもっと安くなる現実、どうやって生活すればいいのか、正規なら福利厚生も安心なのに、なぜこんな思いをしないといけないのか、つらいです、不安です。正規職員がいた学校で働いています。事務処理もたくさんあり時間合に仕事はおわりません。校長先生の判断がなくても時間外手当を毎月出してほしいです。(50代・女性・学校司書)
- 私の職場では正規も非正規も同じ仕事をしていますが、給与や待遇などに明確な差があります。また本来、正規職員が退職した場合公募をして人員を補充しなければならないところを分野外の人員の移動で補充しています。上位の枠が潰されてしまうので下位の人員もモチベーションがなくなる上、若手が全く入ってこなくなりました。(40代・女性・その他)
- 元々、正規職が就いていた後任なので、仕事が多くやりがいがある反面、やりがい搾取のような気もする。仕事が正規も非正規も全く同じ職種なのだから、全員正規での雇用をしてほしい。(50代・女性・図書館司書)
- 一時預かり保育で働いています。保育の仕事は好きですが、人手が少ないうえに小さい子が多かたり泣く子が多い日があると正直キツイです。人手を増やしてもらえたら心にも余裕ができ子ども達と関われるのになーと常々感じています。(40代・女性・保育士)

## 【参考資料】自治労連「もっと、あなたに聞きたい！2023アンケート」

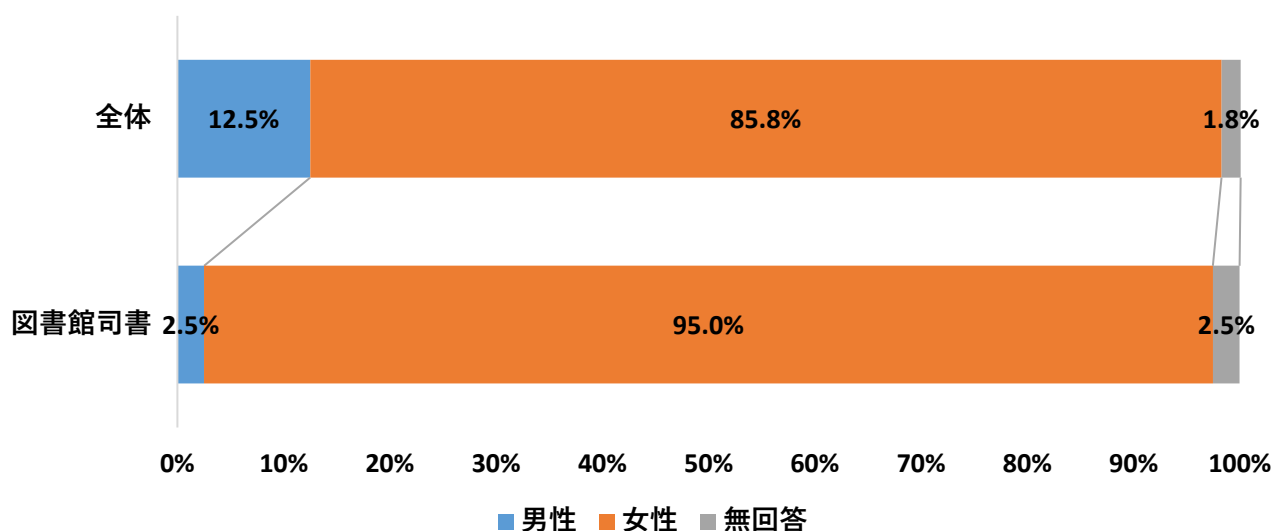
### 図書館司書(n=318)の集計データ

#### ■回答者の年代



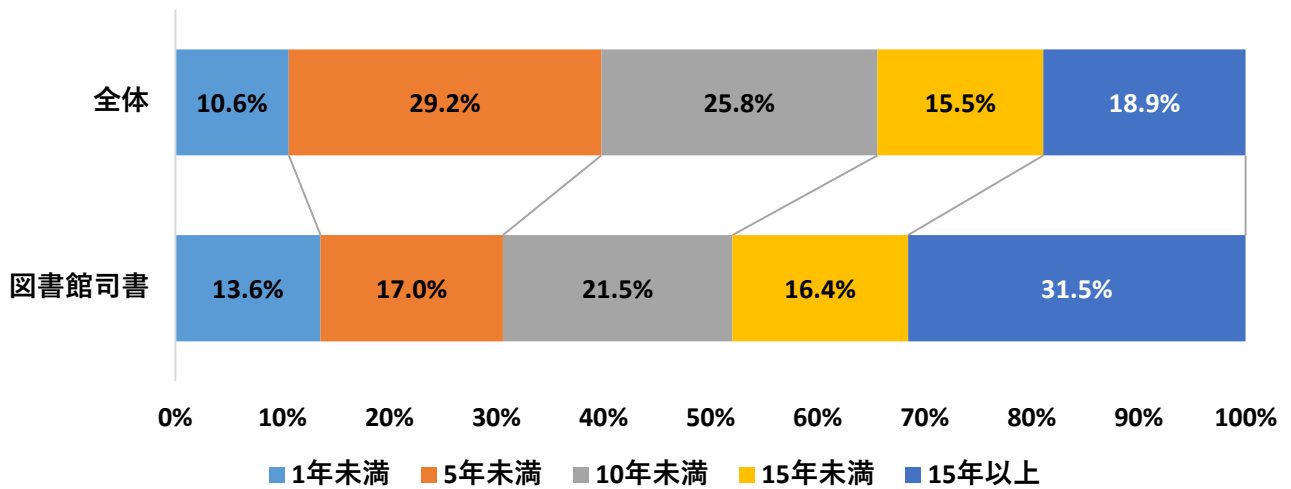
回答者のうち図書館司書の年代は、全体に比べて20代から40代が多かった。20代から40代の職員層が他の職種に比べて厚いといえる。

#### ■性別



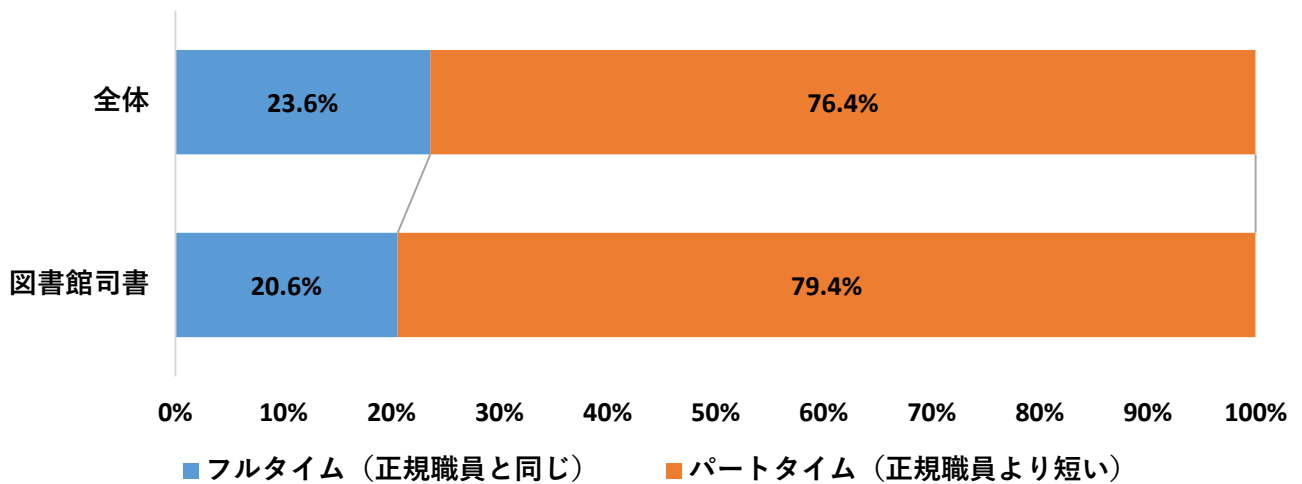
図書館司書の性別は95.0%であった。全体でも女性が圧倒的多数を占める会計年度任用職員のなかでも、図書館司書の女性比率は非常に高い。

## ■勤続年数



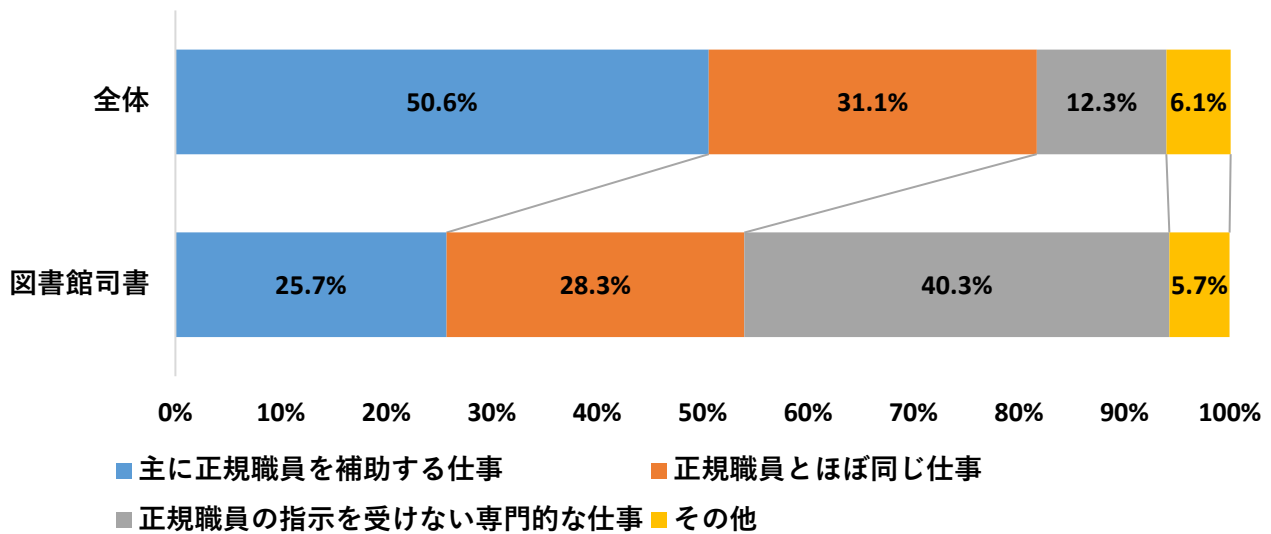
勤続年数で見ると、15年以上働いている図書館司書の割合(31.5%)は、全体の割合(18.9%)と比べて1割以上高い。

## ■就業形態



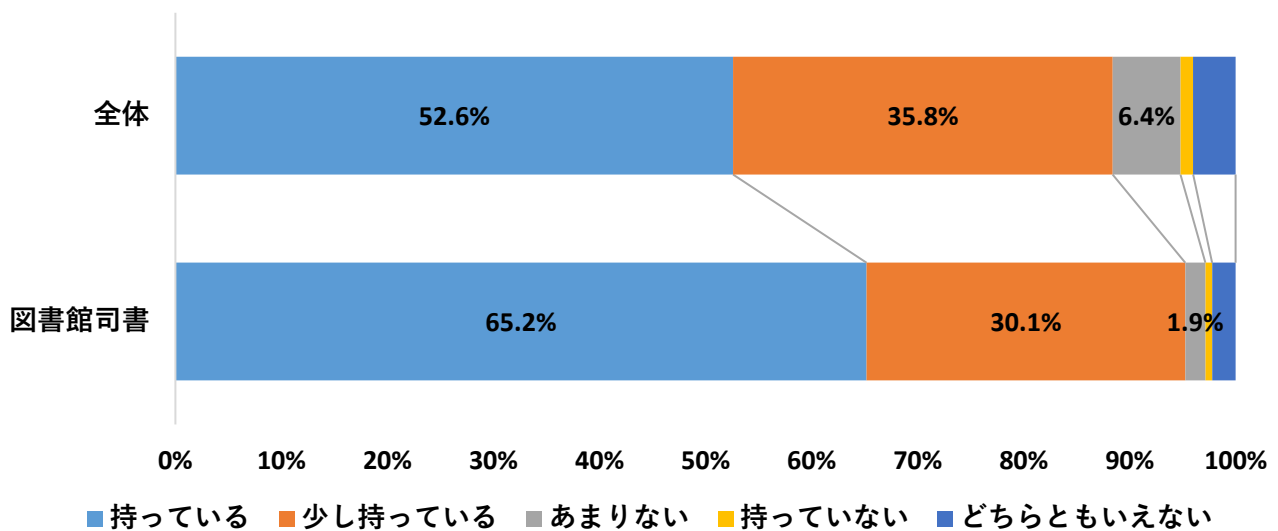
就業形態で見ると、フルタイム(正規職員と同じ)で働いている図書館司書の割合(20.6%)は、全体の割合(23.6%)と比べて若干低い。

## ■仕事の内容や責任の程度



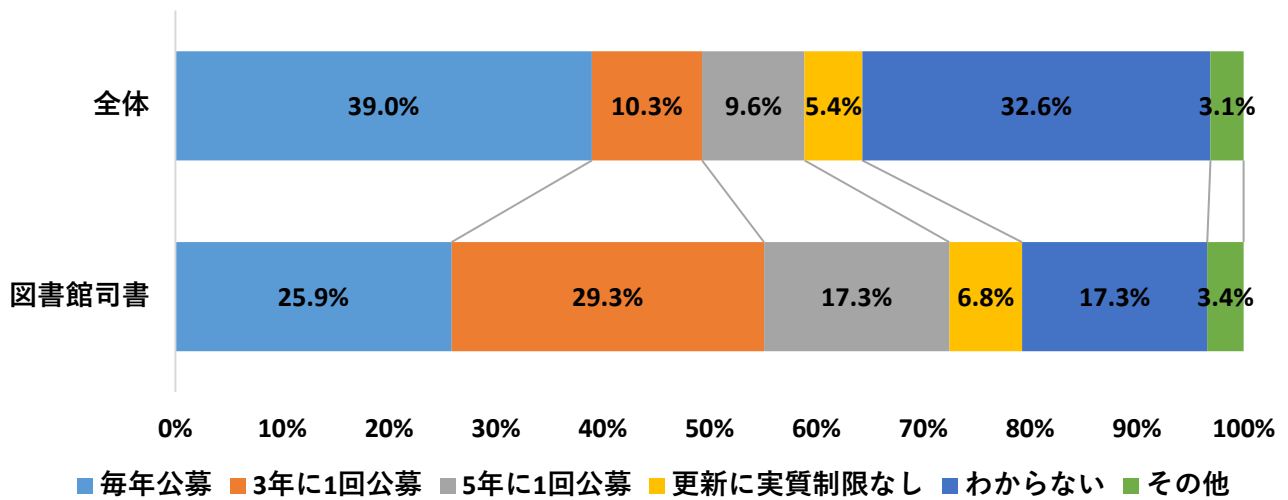
仕事の内容や責任の程度で見ると、正規職員の指示を受けずに働く会計年度任用職員の割合(40.3%)は全体の割合(12.3%)と比べて非常に高い。正規職員とほぼ同じ仕事をしている者も、他の職種に比べ多い傾向がある。一方、主に正規職員を補助する仕事をしている者は少ない。このことから、他の職種と比較して、職場に正規がいない、あるいはいたとしてもほぼ同じ仕事を行っているという実態がみてとれる。

## ■仕事のやりがい・誇りの有無



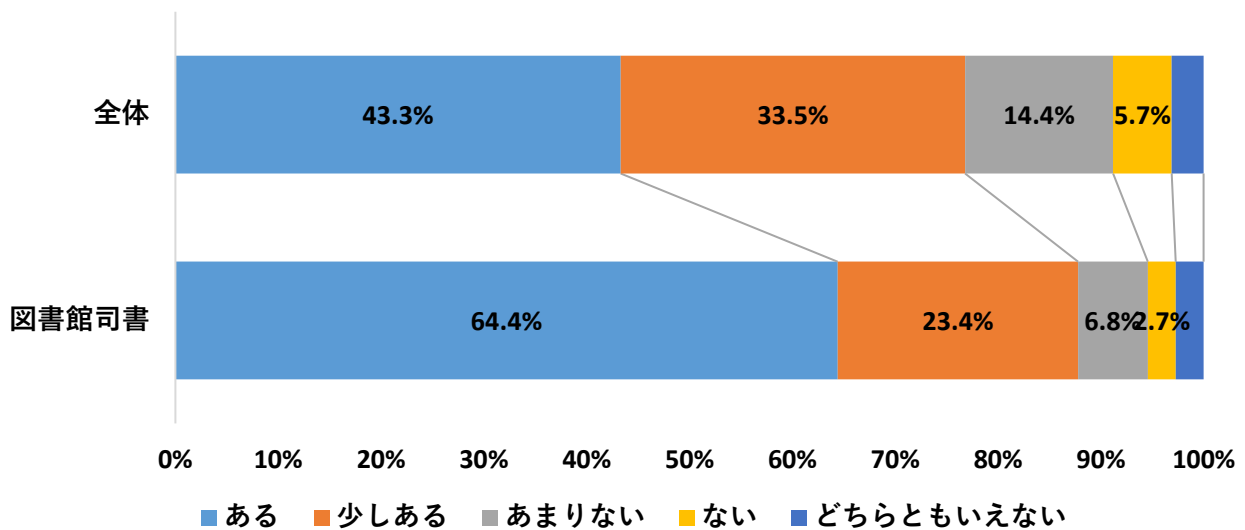
図書館司書のうち 95.3%が仕事にやりがいや誇りを持っている、または少し持っていると回答している。全体と比較して、仕事に対してやりがいや誇りを持って取り組んでいる割合が高い。資格を有する専門職種としての特徴と考えられる。

## ■職場での公募の頻度



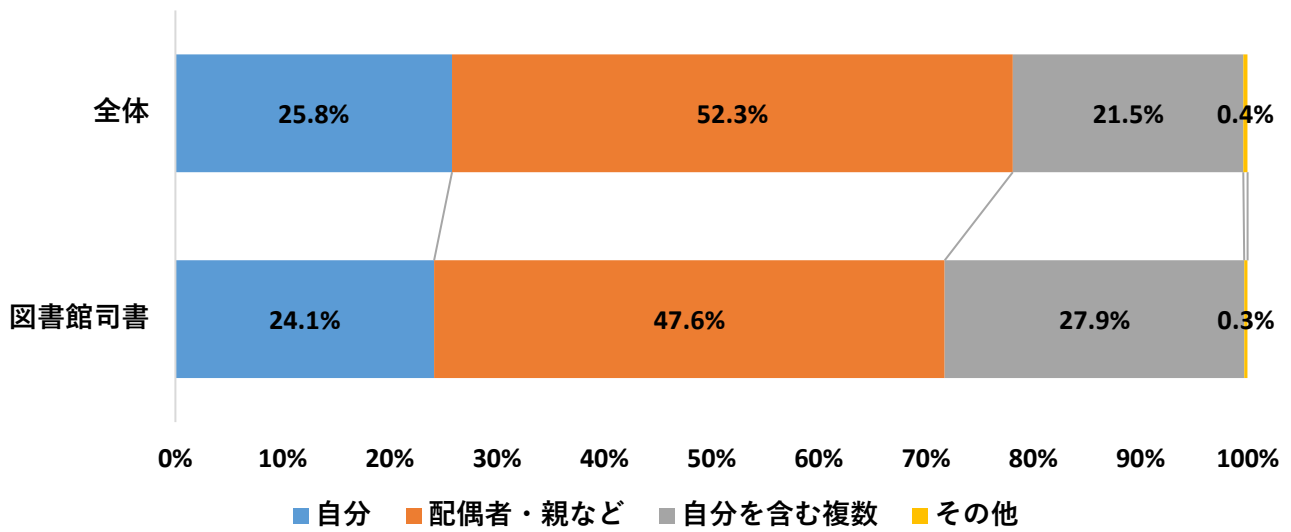
図書館司書のうち 29.3%が「3年に1回公募」があると回答している(「3年目の壁」)。また、全体と比較して公募の頻度を「わからない」とする割合が少ない。

## ■失業への不安・ストレス



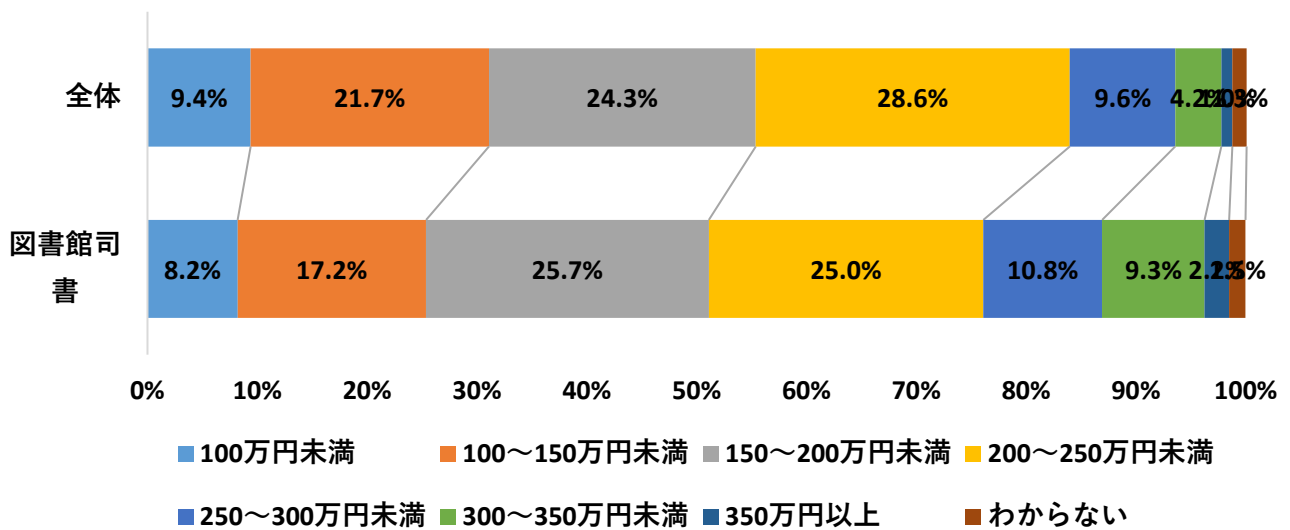
図書館司書のうち 64.4%が失業への不安・ストレスが「ある」と回答しており、全体より 2 割以上高い。「少しある」と合わせると、実に 87.8%が不安やストレスを抱えながら、日々仕事に取り組んでいることが分かる。

## ■主な家計維持者



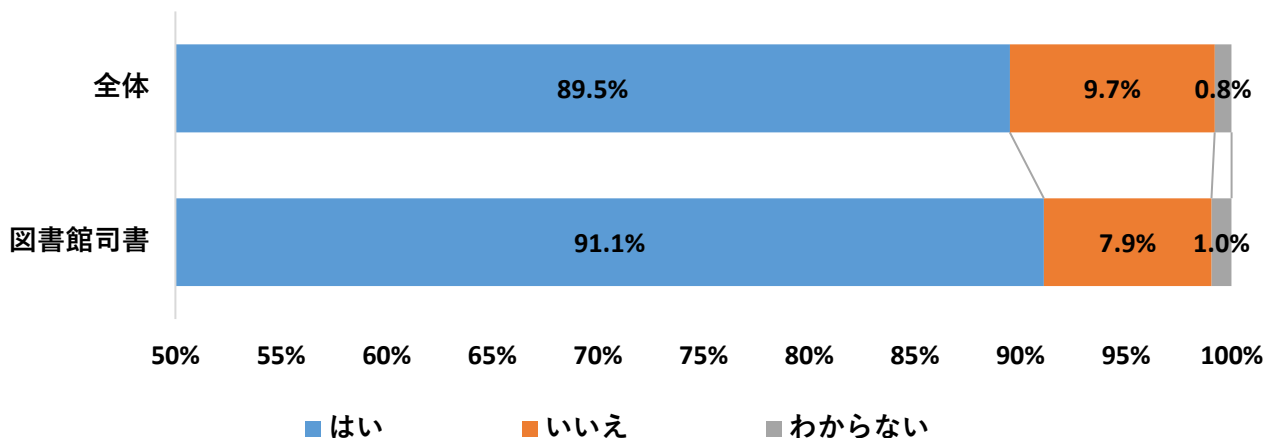
図書館司書は、全体と比べて、主な家計維持者が「自分」と答えた割合(24.1%)はあまり変わらないものの、「自分を含む複数」と答えた割合(27.9%)は大きい。

## ■勤続1年以上の回答者の年収(2022年度)



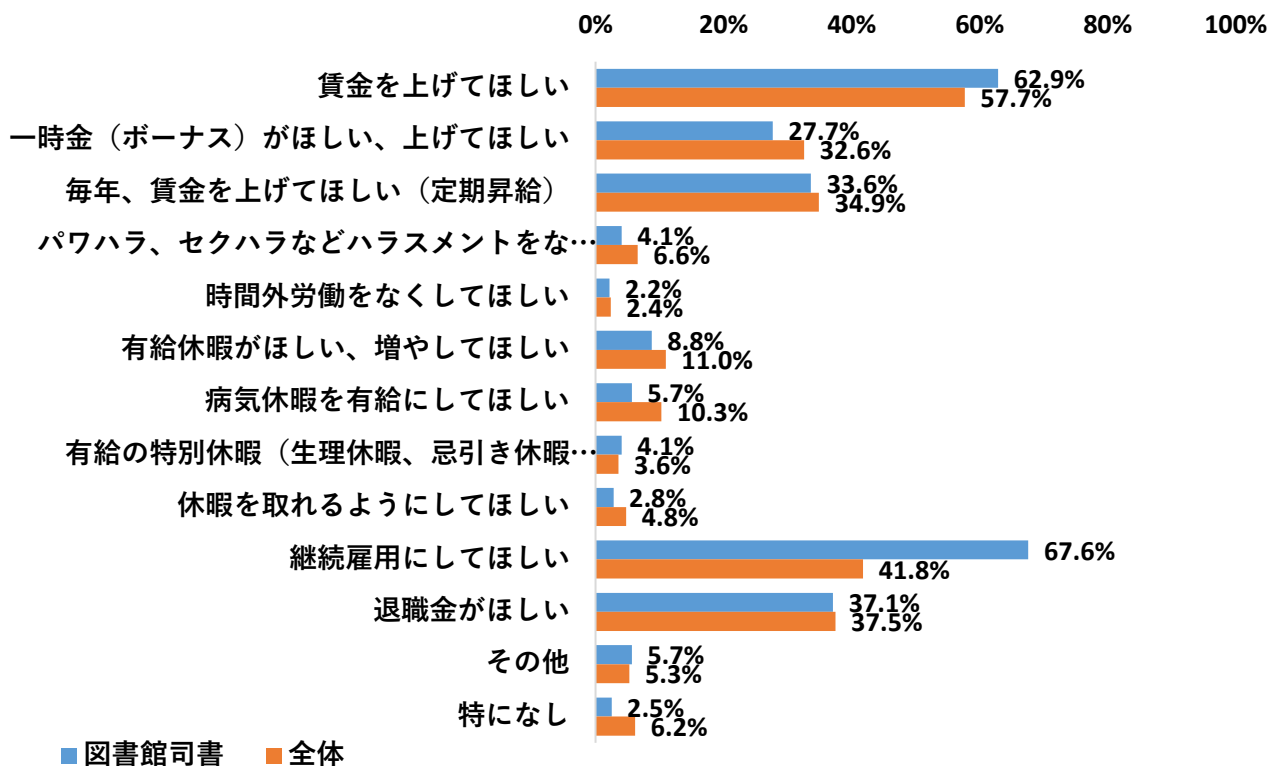
2022年の年収は、200万円未満までは、全体とほとんど変わらない傾向が見られた。

## ■一時金の有無



一時金の有無は、全体とほとんど変わらない傾向が見られた。

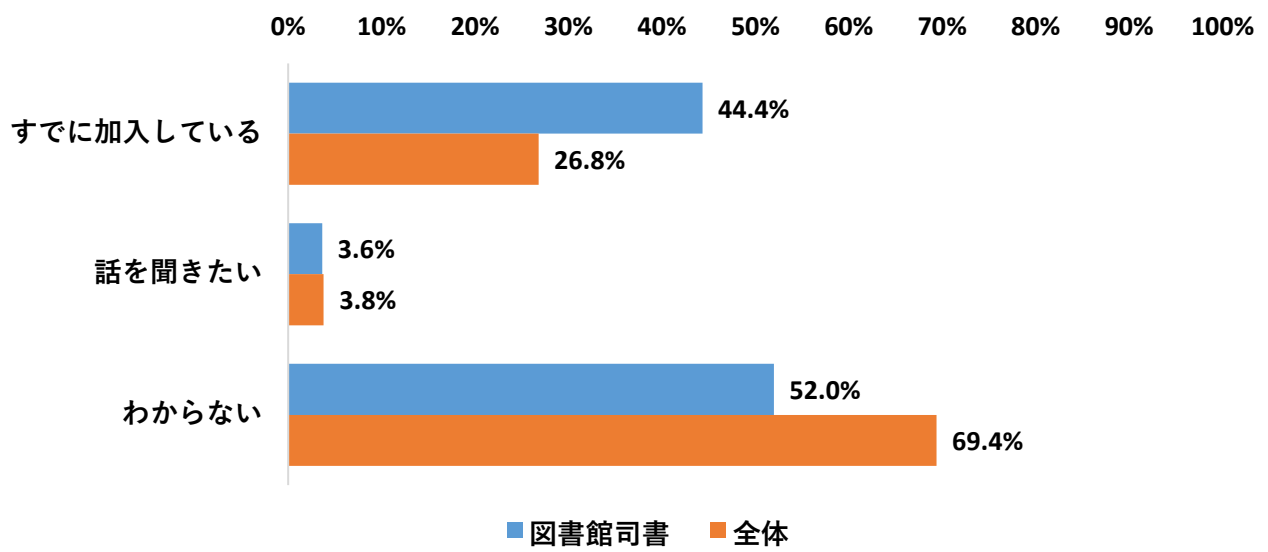
## ■改善してほしいこと(3つまで)



改善が求められている点として、全体と比べて図書館司書は、「継続雇用にしてほしい」という希望が非常に多かった(67.6%)。公募の頻度を把握している割合や、失業への不安・ストレスを有する割合が高かったことが反映された結果と考えられる。



## ■労働組合について



労働組合への加入割合は全体に比べて2割近く高かった。